

(仮称) かすかべエリアプラットフォーム 未来ビジョン会議



エリアプラットフォーム
関係者向け資料

※画像はイメージです

2026/7/2

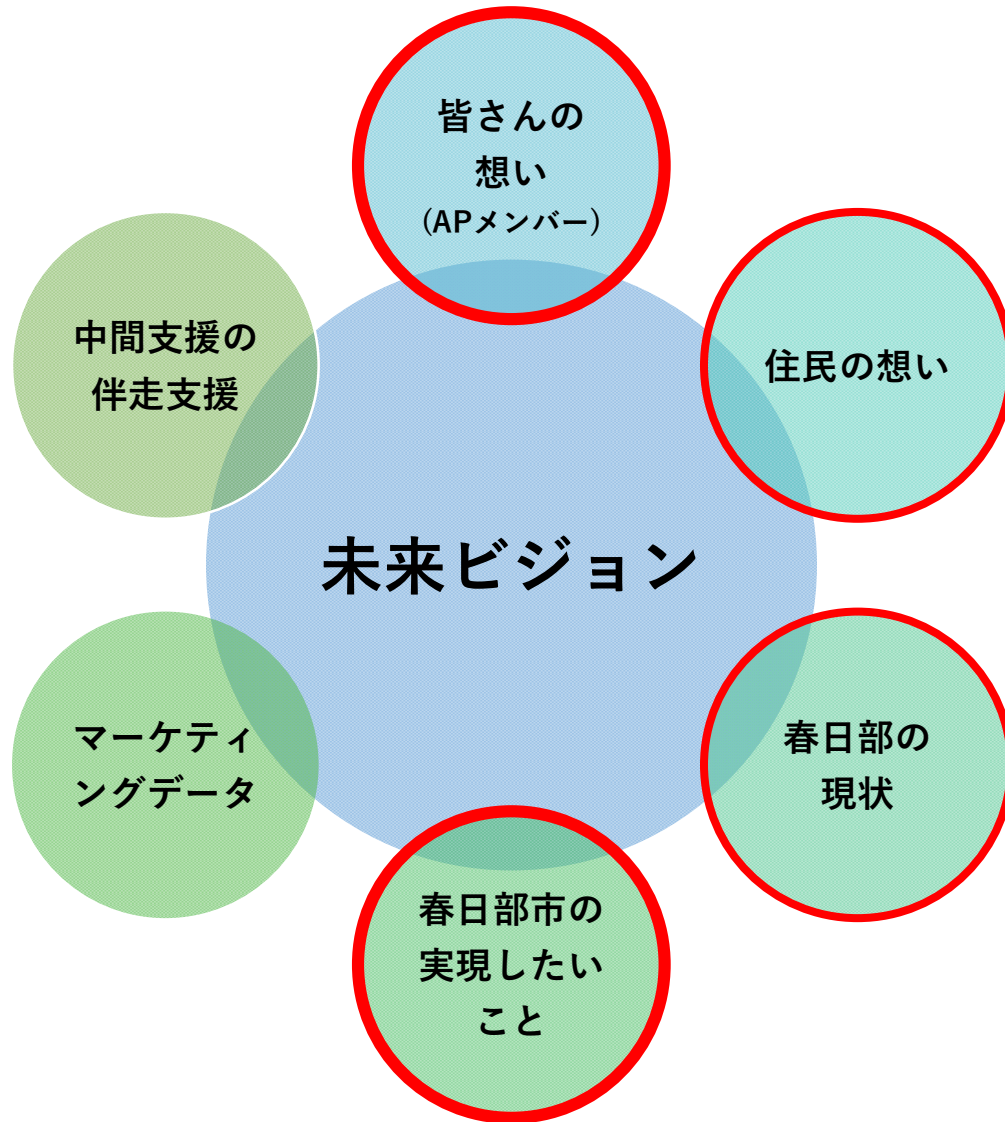
strictly confidential

【閲覧制限A】提出企業様のみ

関係者
限定

・未来ビジョンの基となる要素構成の確認
・ビジョンの柱の仮案作成

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
主な内容	交流会	テーマ選定/ 企画仮説立案	フィールド ワーク	勉強会/ 企画発表/ AP発足	企画立案	企画発表会/ 未来ビジョン 骨子	社会実験候補の 選定	未来ビジョン 完成/部会設立	社会実験の検討	未来ビジョン データ完成	報告会/未来ビ ジョン冊子完成
未来 ビジョン		●定例検討会（月1開催） ●ビジョン要素構成の協議 ●ビジョン要素の個別協議 ●APリーダーの募集	●ビジョン要素の個別協議 ●APリーダーの確定	●ビジョン要素の個別協議・運営規約/ルール確定	●AP発足	●ビジョン骨子発表 ●ビジョン要素の個別協議(部会ルール/意思決定フローなど)	●定例検討会（月1開催・APリーダー主導） ●ビジョンの具体協議/社会実験候補の選定	●ビジョンの方向性確定			●報告会/ 成果発表
企画	●企画の仮説立案 ●交流会（テーマ案収集/チーム組成）	●検討会（テーマ×企画仮説立案）		●企画立案/部会構築検討	●勉強会(企画案の発表)	●企画発表会(一般公開)	●企画発表・企画の具体化・部会設立 ●社会実験テーマ仮確定 ※実施確定は来年度	●社会実験の検討（部会単位） ●部会リーダー選定/部会設立			●社会実験方法/KPIの検討
			●フィールドワーク（仮説磨き上げ）		●フィールドワーク（エリア実態把握）						



活動方向性の共通認識に向けて、
改めて春日部市の現状と実現したいことを共有

企画シートからコンセプト案の仮案を
議論のたたき台として提示

APメンバーの意見を踏まえて、
官民連携まちづくりのビジョンに反映していく

本日の目的&タイムテーブル

no	カテゴリ	時間	内容
1	インプット	19:00～19:20	春日部市の現状と目指したい方向性・AP活動目的/メリット振り返り・KPI案の説明
2	意見収集	19:20～20:00	未来ビジョン要素構成とつくり方 ビジョンの柱の仮設定に向けたアイデア・意見収集
3	共通認識	20:00～20:40	活動内容に対する質問タイム・活動方針に対する意見収集
4	まとめ	20:40～21:00	総括・片付け・集合写真撮影

目指す将来都市像

「つながる にぎわう すまいるシティ 春日部」



【目標】

春日部駅付近連続立体交差事業を着工するとともに、春日部駅周辺の中心市街地の一体感を醸成します。各鉄道駅では機能的な基盤整備を行い、公共交通を充実することによってコンパクトで質の高い市街地の形成を図ります。また、企業進出を促進することで市内経済のさらなる発展を図り、加えて、新たな観光資源の創出、活用とともに、効果的な情報発信によって、

来街者や居住者を増やしてにぎわいを生み出す取組を、
官民が一体となって進め、**本市に誇りや愛着をもてるまち**をめざします。

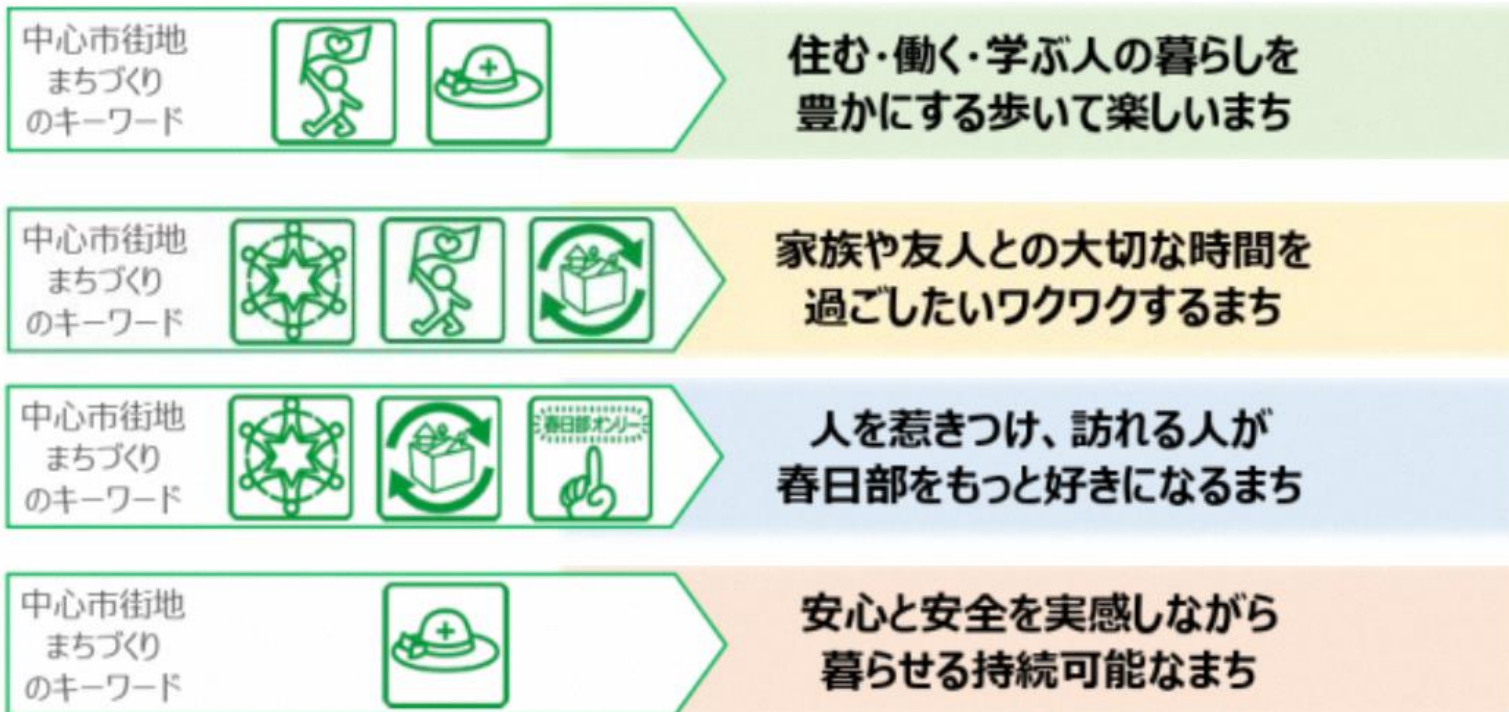
【魅力とにぎわいのある中心市街地の創出】

春日部駅付近連続立体交差事業とそれを契機とした一体的なまちづくりの推進

- 春日部駅付近連続立体交差事業の着工
- 土地の高度利用と都市機能の更新を図るため、建物の共同化、不燃化、あわせて主要な都市基盤施設の整備を推進
- 面的な回遊を生み出す**ため、都市計画道路など（中央通り線、（仮称）春日部駅東西連絡道路）の整備を推進
- 中心市街地活性化に向けた新たな体制の推進**

1-2. 中心市街地まちづくり計画の目的と意義

行政のみでは解決できない都市構造的な問題や社会・経済的諸課題に対応し、
次の時代に向けた新たな挑戦を進めるため、
公民学が連携し、お互いの役割を補完する「公民連携＋学」によるまちづくりを進めたい



官民連携で
ビジョンを再設定し
持続可能なまちづくりへ

引用元：春日部市中心市街地まちづくり計画

”人主役”の居心地が良く歩きたくなるまちなか

日々の暮らしを豊かにし、まちなかをよくするため

“まちみち”
＼「街路をつかいこなそう！」を合言葉に行動してみませんか／



街路は、ただ歩くだけの空間ではない。

ちょっとした工夫やアイデアで、日々の暮らしやまちがもっと楽しく、もっと豊かになる。あなたにとって、それは “くつろげる居場所” “チャレンジや表現の場” “出会い、交流が生まれる場”... かもしれない。

日々の暮らしのなかで、まちみちをつかいこなすことが、まちをよくすることにつながる。

小さなことからでもいい。お店の前にちょっとしたベンチを置く、道端の緑や花を楽しむ、まちでイベントやアートなど、やりたかったことを試してみる。

そうして少しずつ、春日部は 歩きたくなる、居心地のよいまちなかへと変わっていく。

鉄道の高架化や駅前空間再編を契機に
「通過する駅前」から「人が過ごし、滞在し、交流する駅前」への転換

【重点項目】

人が滞在し、心地よく過ごせる駅前空間の形成

①滞在性（滞在人口・滞在時間・居場所の形成）

- ・人が自然に立ち寄り、滞在し、過ごしたくなる空間となっているかを把握する。

②快適性・居心地の良さ

- ・歩きやすさ、座りやすさ、安全性、開放感、清潔感など、歩行者が快適に移動・滞在できる空間の質を把握する。

③活動の多様性

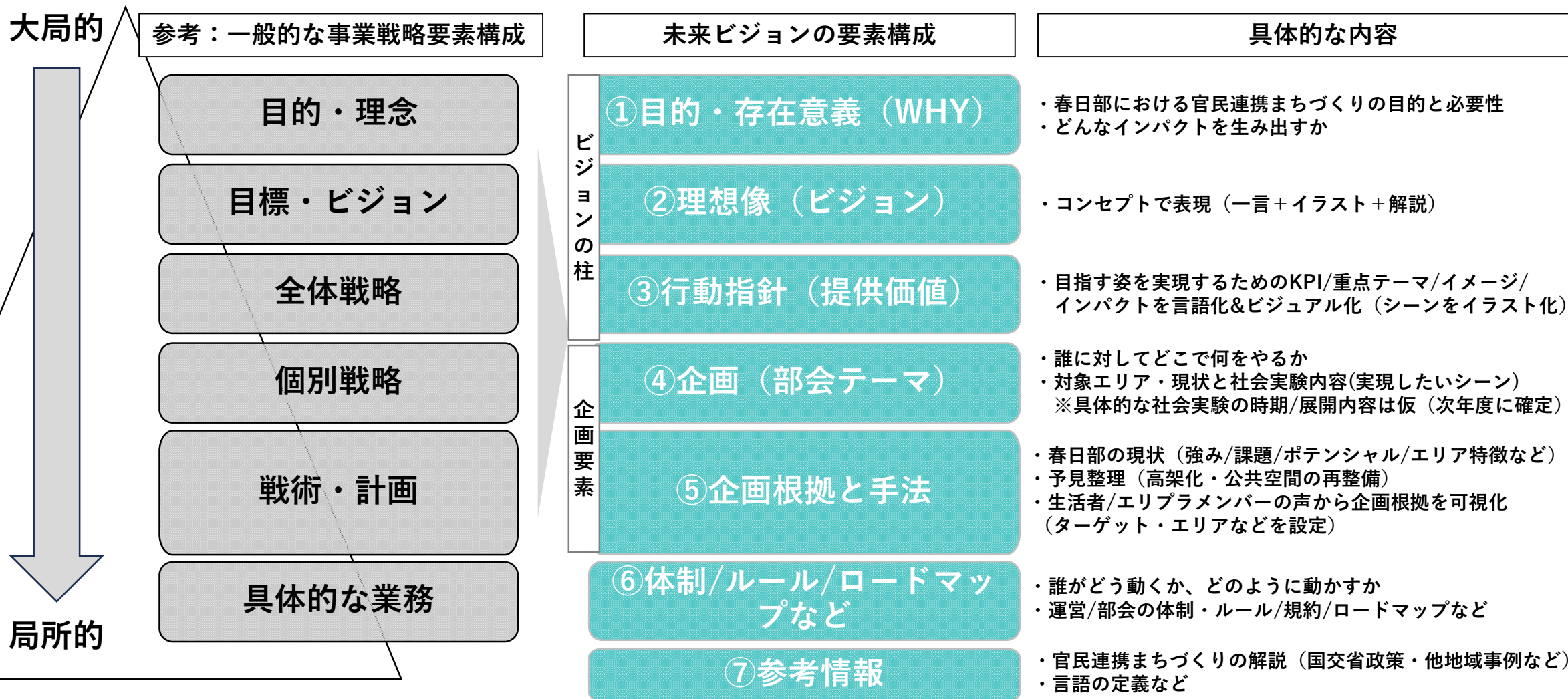
- ・公共空間における多様な使われ方や、市民活動・イベント利用の広がりを把握する。

④回遊性

- ・駅前空間と周辺商業地を含めた歩行者の回遊行動やエリア内のつながりを把握する。

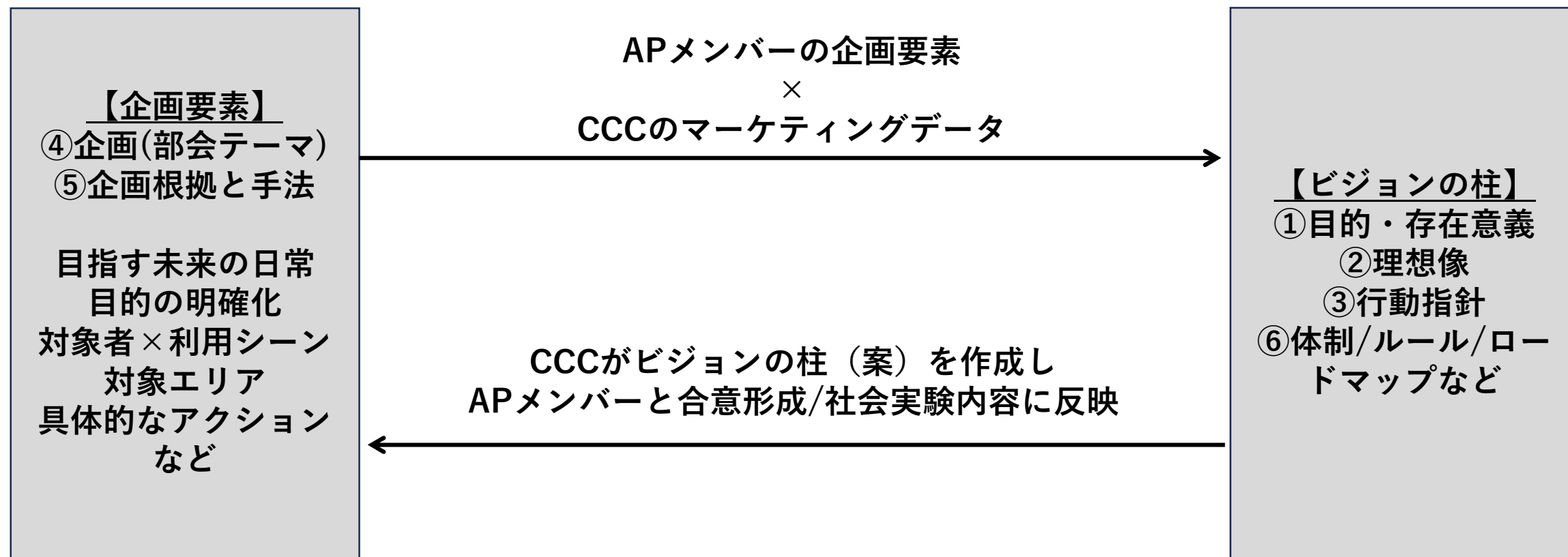
2-1. 未来ビジョン要素構成

一般的な事業戦略要素構成と先進事例（松本城三の丸APなど）を参考にしながら
エリアプラットフォームの活動方針と活動内容が分かる要素構成



2-2. 未来ビジョン策定の大まかな流れ

企画シート内容を踏まえて、企画要素やマーケティングデータをもとにビジョン要素を抽出し、CCCが理想像・行動指針に反映しながらビジョンの柱（案）を作成



①利用シーン

企画シートの目指す未来の日常シーン・目的から7つに分類（名詞）

②共通の価値観

- ・ 4つのテーマに因数分解（動詞）
- ・ どんな「感情」や「体験」を得たいのか

③コンセプト案

- ・ 4つのテーマを踏まえて、活動の方向性を一言で表現
- ・ APメンバーとの議論のたたき台として意見反映し、仮案の設定へ

目指す未来の日常シーン・目的を軸に、7つの共通する利用シーンに分類

利用シーン	子育て	対話コミュニティ	チルアウト・パーク	回遊・買い回り	非日常・カルチャー	防災	動物(ペット)共生
目指す未来の日常 (シーン)	・子供が安心して遊べる環境 ・親子が散歩できる広い歩道 ・飽きない空間、落ち着く場所	・街ごと対話できるマルシェ ・地元商店と住民が会話しながら買い物や食事を楽しむ ・近隣市町も巻き込む	・青空/星空リビング ・芝生で音楽を聴きくつろぐ ・朝の世間話、昼の休息、夜のビールを楽しむ風景	・休日に家族や友人と駅周辺を散策する ・興味をそそる店舗での買い回り ・自然と川まで歩きたくなる	・アート作品や音楽、ダンスのパフォーマンス ・キッチンカーの出店 ・ドローンショーや観光客との交流	・市民が集まり必要な防災を駅周辺で話し合う ・新コミュニティによる防災訓練の企画・発信	・ドッグラン&カフェで犬と人がリラックスする ・散歩を通じた顔見知り、声かけ、支え合い
目的の明確化（仮説）	・子供中心の都市作り ・子供が楽しめる場所を作り、親の活動と経済活動を生む	・発見がある街への転換 ・会話からニーズを探りビジネスに還元 ・将来寄り添える関係創出	・通過空間から滞在空間へ ・日常の居心地向上 ・特別感による動機作りで若者 ・子育て層の定着	・活気を見せ外から人を呼ぶ ・住人の生活スタイル変化 ・東口や水辺エリアの昼間の人口増を図る	・シビックプライドの醸成 ・文化をベースにした賑わい創出 ・春日部の目的地化（PR）	・外郭放水路などを活かした春日部ならではの防災モデル構築 ・自治体PRへの貢献	・繋がり希薄化や孤立、健康不安の解消 ・動物への愛着をきっかけとしたコミュニティ増
対象者 × 利用シーン	[対象] 子育て世代（親・祖父母） [時間] 休日昼 [背景] 遠出したくないが近場で子供と楽しみたい人	[対象] 多世代（子育て・若者・シニア） [時間] 平日夜、休日朝・昼 [背景] 都内通勤に疲れた人、繋がりを求める人	[対象] 多世代（特に単身者・若者・シニア） [時間] 平日・休日（朝～夜） [背景] 行く場所がなくチェーン店に溜まる人	[対象] 来街者、子育て世代、学生 [時間] 休日昼 [背景] 日常的に駅を利用する人、カフェや散策好き	[対象] 若者・学生、来街者、シニア [時間] 平日夜、休日昼 [背景] 属性で絞らず、文化や趣味の界隈で集まる人	[対象] 防災に関心がある人（多世代） [時間] 平日夜、休日朝・昼 [背景] 自治会に代わる新たな繋がりを求める人	[対象] 犬の飼い主、動物好き、シニア、親子 [時間] 平日・休日 [背景] 犬との時間が生きがいの人、繋がりを求める人
対象エリア・空間構想	・駅前広場（芝生化） ・高架下（遊び場、カフェ） ・東口～文化会館、古利根川	・駅から300m圏内（西口広場、ふじ通り、市役所通り等） ・人口増のエリア	・日常的に使用できる道路や公園	・駅前～ララガーデン ・東口エリア～利根川周辺	・高架化した駅前広場 ・鉄道高架下	・駅周辺の集いの場、空きスペース	・ドッグラン&カフェ施設（公園や駅周辺の余白スペース等）

共通の価値観（共通するキーワードや、目指すまちの空気感）から因数分解

① 日常の居心地と滞在（くつろぎ）

ただ通り過ぎる場所から、我が家のようにホッとできるみんなの居場所へ

キーワード：芝生、テラス、カフェ、広い歩道、落ち着く、朝のお茶、夜のビール

② 顔の見えるつながりと対話（つながり）

ペットや防災など共通の関心をきっかけに、日常の挨拶や支え合いが生まれる関係

キーワード：まちなかマルシェ、会話、声かけ、支え合い、話し合い、新コミュニティ

③ 街を歩く楽しさと発見（回遊）

駅前を起点に、古利根川やララガーデン、周辺の商店街へと自然と足が延びる動線

キーワード：散策、買い回り、興味をそそる店舗、川まで歩きたくなる仕掛け、外から人を呼ぶ

④ 感性を刺激する体験と賑わい（カルチャー）

日常に溶け込む音楽やアート、時には特別なイベントで五感からワクワクする街へ

キーワード：アート、音楽、ダンス、ドローンショー、姉妹都市、キッチンカー、界限

2-4. ③コンセプト案・イメージ（議論のたたき台）

ビジョンの柱となるコンセプトの仮案を設定し、活動の方向性を定めていきながら今年中に確定を目指す

①駅を出たら、わたしのリビング。

- 春日部駅を利用しているが街中を利用していない人をメインターゲットに、駅から街中へ繰り出すイメージをメイン訴求。駅前で「何もしない贅沢」や「日常の延長にあるくつろぎ」を感じることで、住民が街に佇むようになり「能動的な愛着（シビックプライド）」へと変化。

②くつろぎ、かかわり、カルチャーのまち春日部

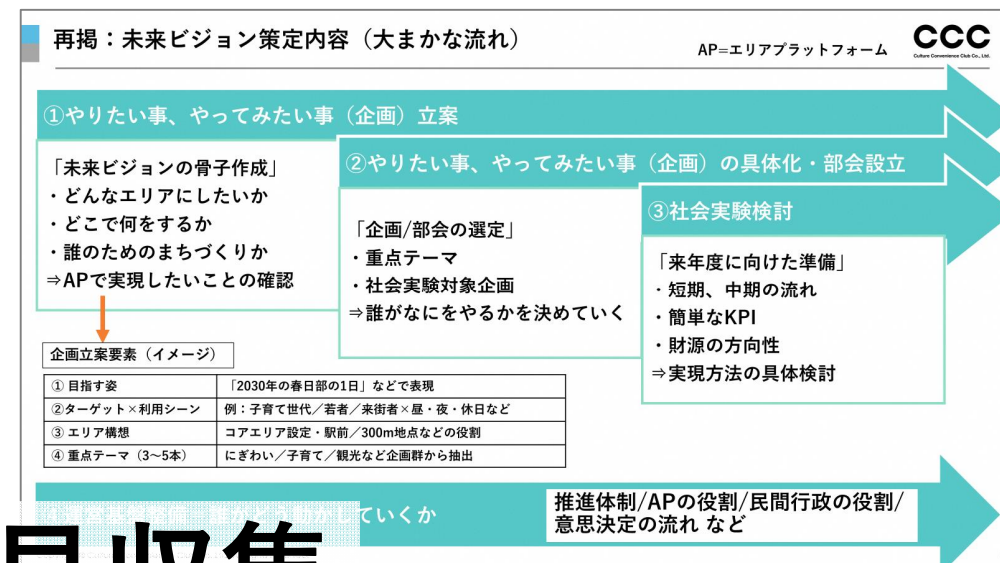
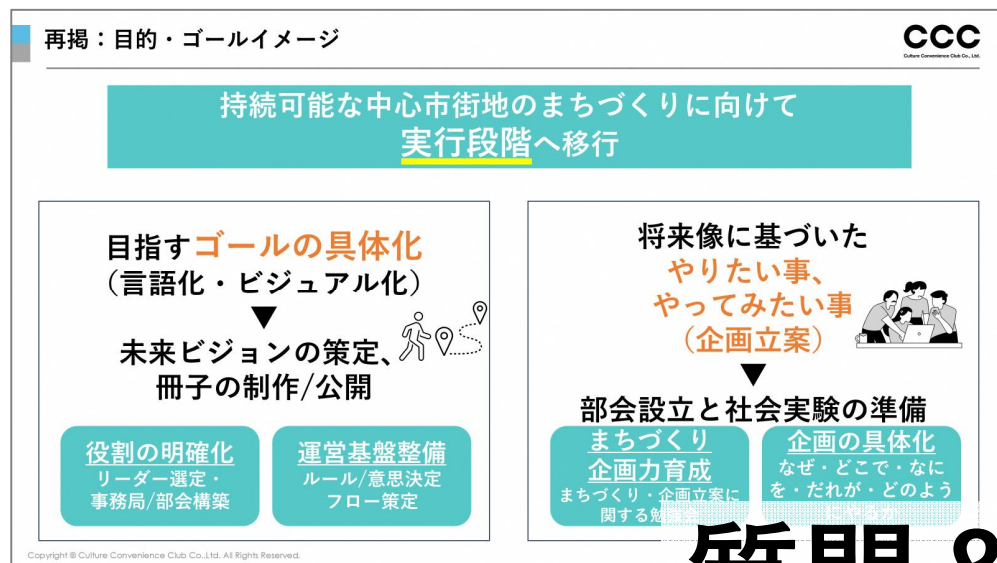
- APメンバーの理想像/テーマをストレートに盛り込んだコンセプト案。芝生に寝転ぶ【くつろぎ】。顔の見える誰かと紡ぐ【かかわり】。感性を震わせる【カルチャー】。春日部の頭文字Kから始まる、春日部の未来を創る新しい3K（ネガティブからポジティブへ逆転の発想）

③線路をこえて、街をあそぼう。

- 高架化の最大価値である「線路をこえる」という物理的な変化を、子どもからシニアまで一目で伝わるアクティブな言葉に翻訳。これからは駅前も、東口も西口も、古利根川も商店街も、ぜんぶが遊び場。春日部の街中を歩くと、春日部ならではの魅力や人に出会い日常が楽しくなる。

【議論テーマ】

- 各コンセプト案へのご意見
- 重視したいポイント
- 強調したいメッセージ
- 誰をメインターゲットとするか
- 必要だと思う要素
- 他アイデア など



質問 & 意見収集

